

最終結論は来年に

水俣病の患者 精密検査終わる

水俣病の疑いがあるとみられる潜在患者の精密検査は、十一月中旬から水俣市立病院で水俣病審査会メンバーの専門教授らの手で進められていたが、このほど全患者十八人の検査が終わった。最終結論は来年に持ち越される予定。

潜在患者の問題は水俣病についての国の結論が出るのに前後して

クローズアップされたもので、これまで水俣病審査会から認定されている水俣病患者の症状と似た患者がほかにいるということから、これらの患者も精密検査による再審査に踏み切った。再審査の対象者はあくまで本人または家族から「水俣病の疑いがある」として再審査の申し出があったものばかりで、未成年者が八人（水俣市在住二人、葦北郡二人、球磨郡、熊本市、鹿児島県阿久根市、出水市各一人）成人者十人（水俣市七人、出水市三人）の計十八人。精密検査は成人者が十一月十三日から三日間、未成年者が二十五日から二日間、審査会長の貴田熊大医学部教授をはじめ徳臣同教授、大橋水俣市立病院院長ら審査会のメンバーが行ない、現在全患者の細かな資料は熊大医学部内の同審査会で専門的な検討をしているが「水俣病患者かどうか」の最終結論は来年に持ち越される予定。

一方、水俣病発生当時から現在まで症状の変化と新しいカルテを作るための再診察を予定していた従来の水俣病患者六十九人についてはいろいろな事情で再診察が遅れ、潜在患者の結論を出したあとになるもよう。